

## 巻頭言

## Mamma Mia! 続編



会長 山崎 學

2019年6月26日、バチカンで第266代フランシスコ・ローマ教皇に謁見し、祝福していただいた10個の十字架のお話である。

かねてから五島列島\*にある古い教会群を巡礼したいと思っていた。会長業務に追われて先延ばしになっていたが、長年の望みがかなって10月9日羽田から五島福江に飛んだ。羽田から福岡での乗り継ぎを含めて所要時間は3時間、思っていたより近かった。

8月号の巻頭言で詳述したが、2019年の日精協主催の海外医療視察研修の折に運よくローマ教皇との拝謁がかない、前日に訪れた修道院を改装した精神病院（ピッラ・ジュゼッペ）のシスター・マルガリータからいただいた祈祷用の10個の十字架を、教皇様に祝福していただくことができた。私はその‘祝福十字架’を五島列島の巡礼の際、それを持つべき人に出会ったならば手渡しで差し上げたいなどと、大それたことを考えていた。

ガイドの出迎えを受けて、早速福江の巡礼開始。今回は下五島の巡礼である。まずはじめに1968（昭和43）年に建てられた浦頭教会、海岸沿いに移動して、1907（明治40）年に建てられ、現在はキリシタン資料館になっているレンガ造りの堂崎教会を訪ねた。教会脇のひなびた喫茶店でコーヒーフロートをいただく。店主は88歳の白浜今朝代さん。20歳の時に大分から嫁いできて60数年。信仰に生きているお顔は少し日焼けして、満ち足りた笑顔が素晴らしく、その由来を話しながら祝福十字架を差し上げたら、泣き出してしまった。

次いで、1971（昭和46）年に建てられた民家の屋根に十字架が乗っているような宮原教会、海岸線に戻り1922（大正11）年アイルランドからの寄付と信徒の労働奉仕で鐵川與助\*\*が施工した半泊教会、寛永年間に入島した5家族の信仰から始まり、1938（昭和13）年に同じく鐵川與助が設計施工した水の浦教会。島の西先端に移動し、安永年間から永住したと伝えられる潜伏キリシタンの末裔が住む地区に、1971（昭和46）年に建てられた三井楽教会、1924（大正13）年に建てられた木造建築の貝津教会。再び海岸線に戻り1973（昭和48）年に建てられた民家風の打折教会、五島崩れ\*\*\*の迫害に会いながら1912（明治45）年に建てられたレンガ造りの楠原教会。計9教会を3時間で急ぎ足で巡り、夕食は洋食「望月」で五島牛ステーキ。宿は島言葉で「来てみませんか」を意味する五島コンカナ王国。牧場を改装して分棟式に建てられているリゾートホテルだが、交通アクセスが悪く、町までタクシーで20分かかる。森林を切り開いてつくられた暗闇の中に点在するコテージは、かなり不気味だった。

翌10日、ホテルのビュッフェバイキングで朝食を済ませた後、奈留島へ向かう。福江港からフェリーに乗ること30分で到着。ガイドの運転で、やはりこれも鐵川與助が1918（大正7）年に設計施工した木造建築の江上天主堂へ。現在、信徒は5名で月1回の巡回ミサが行われている。港方面に戻って、1926（大正15）年に建てられた奈留教会。庭にはルルドのマリア像があった。五島列島の多くの教会はマリア信仰に由来するらしい。昨日訪れた水の浦教会には、珍しくファティマのマリア像があった。昼食は焼きカマス定食。カマスの時期になったのかと思う。

海上タクシーで15分かけて隣の久賀島に移動。静かな入り江にたたずむ旧五輪教会堂は1881（明治14）年に浜脇教会の聖堂として建てられたが、新堂建築で取り壊される予定であったところを、昭和初期に五輪地区住民の強い要望で現在地に移築したものだという。隣に五輪教会が新築され、NPO法人が市から委託されて管理している。信者は兄弟の2家族で4名。ここも月1回の巡回ミサが行われている。祭壇にはイエスを抱いたヨセフ像が置かれていた。内部を見学しているところで、教会の隣に住んでいるという坂谷さんと出会った。聞けば今日は五島列島出身の前田万葉枢機卿が来島されており、枢機卿と共に昼食をいただいた帰りとのこと。漁師をされていて、兄夫婦含めて4人で五輪教会を守っているという坂谷さんに祝福十字架を差し上げる。枢機卿と昼食をご一緒したうえに祝福十字架まで授かることができたこと、今日の出会いに感謝していた。

旧五輪教会堂から急峻な坂道を上ること20分。予約していたタクシーで怖い崖道を10分走って、牢屋の窄殉教記念教会へ。1868（明治元）年、明治政府によるキリシタン弾圧で老若男女200名あまりの信徒が12畳の牢屋に8カ月間にわたって監禁され、老人・幼児中心に42名が牢死したという。その殉死者の碑の前でミサを行っていたのは前田万葉枢機卿であった。枢機卿はミサのなかで、弾圧によってみなし子になった孤児を引き取って養育した坂谷さんのご先祖について触れられ、私は枢機卿にバチカンでの教皇様とのエピソード、祝福十字架のお話をさせていただく機会を持つことができた。改めて祝福十字架は持つべき人の手に渡っている想いがした。

最後に訪れた浜脇教会は、1881（明治14）年に建てられたが傷みが激しくなり新築したものである。1931（昭和6）年に建てられたこの建物の庭には、枢機卿来島を祝って大量の大漁旗が風になびいていた。

フェリーで福江港に戻り、夕食はキビナゴ、カツオ刺身、箱フグ味噌煮、寿司8貫。コンカナ王国で再び不気味な夜を過ごし、翌朝、台風19号を避けて帰路に就く。

祝福十字架8個は、次回上五島巡礼まで大切に保管することとなった。

（文中に記載の建立年は現在の建物）

- \* 九州の最西端、長崎県の西方海上約100kmに位置し、大小152の島々からなる。大きく2つに分け、福江島・久賀島・奈留島を「下五島」、若松島・中通島・それ以北を「上五島」と呼んでいる。
- \*\* 1879年1月13日 - 1976年7月5日 長崎県を中心に多くのカトリックの教会堂建築を手がけた長崎県出身の大工棟梁・建築家。
- \*\*\* 崩れとは、潜伏して信仰を語り継いできた組織が大規模に摘発されることをさす。五島のキリシタンたちは明治政府から過酷な弾圧を受けた。